

櫛の木

健康で心ゆたかな子 深く考えくふうして学ぶ子 進んではたらく子

11月号 杉並区立杉並第六小学校 <http://www.suginami-school.ed.jp/sugi6shou/>



「ハーモニーを奏でよう」

校長 守田 聡美

11月8日、9日の音楽会にむけ一人一人の子供の奏でる音や声が、素敵なハーモニーに育ちつつあります。以前、小澤 征爾氏はインタビューの中で「指揮者の仕事は個々の楽器の音色を引き出し、調和させることであり、個々の奏者は周りの音をよく聞くことが大切だ。」と語っておられました。

10月末に80台のタブレットが新たに配置されました。タブレットを活用して一人一人が設定した課題や考え方を瞬時に提示し、共有することができるようになりました。友達とのやりとりを通して、自分の考えだけでなく、友達の異なる考えに触れる活動を増やしています。課題を自ら設定することで、学びが主体的になるだけでなく、異なる考えに触れることで自らの考えを広げ深めることができます。

異なる考えを受けとめて、やりとりする活動を意図的に増やすのは、学習のためだけではありません。教室を覗くと時折、ユニークな発言を揶揄したり、目配せして嘲笑したりするような様子を目にします。自分の考えだけが正しいと断定し、友達の考えを強い口調で否定する場合もあり、とても悲しい気持ちになります。街で食事などしていると仲良しグループらしき高校生が、好きな物や嫌いな事柄について声を揃えて「だよね～！」を連発していたりします。みな同じ考え、同じ嗜好であることが仲間としての証であるかのように、相互に確かめ合う様は「踏み絵」のようにさえ感じます。菅野 仁氏は著書『友だち幻想』の中で、こうした同調圧力が高まるほど異なる考えや価値観を排除し攻撃するようになる。これが「いじめ」へと発展すると述べています。

しかし、私達大人の社会にもこうした傾向があるように感じます。おすすめの商品や情報に囲まれ、仲良しのグループで情報交流し、気づかぬうち

に「わかり合える人たち」だけで閉じてしまう。SNSでは、自分の考えと異なる考えの人を排除し、攻撃することが日常ですし「自分は正しく、自分の考えを理解しない他者は間違っている。」と、断定する風潮が世界中に広がっているように感じます。

杉六小では、子供達の人間関係が固定化しないよう異学年交流や一部教科担任制等を取り入れてきました。また、「子供と地域の方」のように保護者でも先生でもない『ななめの関係』を大切にしています。地域ボランティアの皆さんには、休み時間の校舎内や校庭を見守っていただいたり、授業や放課後学習の時間に教えていただいたりする機会を設けています。子供が子供同士の枠を超え、教職員はもちろん、友達のお父さんやお母さん等より多くの保護者、たくさんの地域の方々と関わることで多様な考えや価値に触れる機会をさらに増やしたいと考えています。そして、自らの考えだけでなく異なる他者を寛容に受けとめられる子供に育てていきたいと思っています。これからも学校と保護者と地域が、子供たちの育成を通して、ハーモニーを奏でる杉六小でありたいと願っています。

10月1日より、本校はコミュニティースクールになりました。「地域と共にある学校」創りをさらに進めてまいります。

【学校運営協議会委員】 委員は、五十音順

委員長	松井 敏夫 (元国分寺市教育委員会教育長)
職務代理	関口 徹 (学校支援本部顧問)
委員	安住 一成 (馬橋ゆうゆう館長)
委員	飯田 光雄 (同窓会役員)
委員	齋藤 由樹子 (杉並幼稚園副園長)
委員	杉坂 あゆみ (元PTA会長)
委員	須甲 松信 (医師)
委員	守田 聡美 (校長)